

報告9 スウェーデン・ストックホルム

学びの成人学校 LARVUX



ストックホルム市が運営する「Lär レール (学ぶ) Vux ヴックス (おとな)」を訪ねる。「就学が難しかった人にベストなカタチで就学を終えることを目標」にした 20 歳以上の人たちが学ぶ学校だ。イエテボリやマルメにもあるが、ストックホルムは全国最大で在籍者は 300 人。11 の自治体から学びに来ている。教職員は 30 人。

＊

デンマークでは、2007 年にはじまった障害のある青年たちのデンマーク独特の教育制度である STU に注目して、作業所や国民高等学校、独自の学舎などを 2013 年から毎年訪問してきた。STU は、場所を選ばず、作業所、国民高等学校、余暇支援の場などどこにあっても、25 歳未満の自閉症、ADHD、知的障害のある若者は合計で 3 年間学べる制度だった。

スウェーデンでは、2016 年に、ストックホルムのモーゴート国民高等学校を訪問した。聴覚障害のある若者たちが学んでいた。すでに訪問していた市内で唯一の知的障害者の特別高校（4 年制）や国立の肢体障害者の高校、若者たちの性の悩み相談を受けている「若者相談センター」のあるエリアだった。

＊

副校長のクリスティーナと進路指導担当のフィードロが説明してくれ、ティーナが担任の「芸術」クラスを授業参観させてもらった。

「この学校では、卒業はなにをもって卒業としているのか？ 希望すればいつまでここで学べるのか？」と質問すると、副校長は「いつかは終わらないといけないので、5 年が最大です」。



○読み書きの基礎をしっかりと学ぶ、移民のためのスウェーデン語授業もある／○コンピューター／○芸術（ダンス、音楽、絵画）／○文化／○家計・計算、それに、○高齢者福祉／○児童福祉／○レストラン／○店員などの職業のコースがある。

また、高次脳機能障害の人のためのコース、戦争地帯からの難民のためのコースもあるそうだ。

コミュニケーションを大事に位置づけて、さまざま機器も活用して「人生についてのディスカッション」をしている。そして、卒業する頃には半数はなんらかの仕事についていく。仕事に就けない人たちはダイアクティビティセンターなどで日中活動にとりくむ。

この学校は、障害児だけではなく、移民や難民の子どもたち含め、学びを希望するすべての人たちが対象のまさにインクルーシブな成人の学校なんだ。

（蘭部英夫）

